

平成27年度家庭教育応援プロジェクト

いずみ幼稚園親子の学び応援講座

◎期 日：平成27年7月3日（金）10：50～12：00

◎実施PTA：玉川村立いずみ幼稚園PTA

講師：堀 琴美 氏 郡山女子大学家政学部人間生活学科講師 放送大学客員准教授

演題：家庭におけるより良い生活習慣と親の関わり方

～メディアが及ぼす子どもの発達への影響～

参加者：保護者80名 教職員1名 地域家庭教育県中ブロック会議関係者4名 合計85名

【講演】

- 1) スマホの影響について
 - スマホ所有率の上昇
 - 肌身離さず所持しており、「既読スルー」を発端とした人間関係の悪化等がある。
 - 前頭前野機能の低下・・・ゲームは前頭前野を使っていない。
 - 2) メディアバイオレンスの影響について
 - <恐怖の増大（1）>
 - 暴力的で恐ろしいTV番組は、子どもに即時的・長期的影響を与える。
 - PTSDの発症
 - <恐怖の増大（2）>
 - 恐怖映像が子どもにとってストレスになるのは、大人のように映像を解釈することができないから。
 - 親たちは、暴力のイメージではなく、子どもが大量の時間を割くことを心配する。時間よりもイメージが怖い。
 - コミュニケーションが、メディアに吸い取られている。
 - メディア・バイオレンスと攻撃的行動の間には、因果関係があるという報告がある。
 - 3) ビデオ漬け
 - 赤ちゃんに意識してテレビ・ビデオを見せている割合
 - ・6ヶ月未満・・・15.5%
 - ・6ヶ月～1歳・・・35%
 - ・1歳以上・・・64%
 - ビデオ教材漬け
 - ・言葉の遅れ
 - ・乱暴な言葉遣い
 - ・生の声で話しかけることで、言語能力が発達する。
 - 4) ゲーム脳
 - ゲームでは、視覚と運動神経回路だけが働き、「考える」ことが抜け落ちる。
 - ゲームを長く続けると、前頭前野の活動低下が慢性化する。
 - テレビなどの視覚刺激に慣れた人は、ゲームに移行しやすい。
 - 5) 「子どもとメディア」の問題に対する提言（日本小児科医会「子どもとメディア」対策委員会より）
 - ①2歳までのテレビ・ビデオの視聴は控えましょう。
 - ②授乳中、食事時のテレビ・ビデオの視聴は止めましょう。
 - ③すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です。
 - ④子ども部屋にはテレビ、ビデオ、パーソナルコンピューターを置かないようにしましょう。
 - ⑤保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。
 - 6) メディアリテラシーを教える
 - ①「プールまたは浅瀬で泳ぐ」段階（スクリーン・テクノロジーを学ぶ）
 - ②「山の湖で泳ぐ」段階
 - ・飛び込ませたり、一人で泳がせたりしてはいけない
 - ③「海で泳ぐ」段階
- ◎ ゲーム依存はなぜやめられないのか
現実的に努力することなく、激しい刺激で耐性が生じ、際限のない刺激を追求する。



◇ 講座を実施して

様々な調査や研究から分かりやすく説明いただいたことで、心の発達へのゲームやスマホの悪影響やアダルトサイトなどに、子どもが簡単に接することができるメディア環境が与える影響などについて理解を深めることができた。ゲーム・スマホ世代の保護者にとって、メディアコントロールに関する親の役割の重要性を再認識することができた。